

研究紹介

組織・運営

学校経営ビジョンの具現化を図る 組織づくりと運営

「教職員一人ひとりが活躍する組織・運営を
めざして」

光市立浅江小学校長

吉村 誠 司



一 はじめに

光支部においては、コミュニティ・スクールの推進と学校間連携の強化を通して、よりよい学校づくりをめざしている。こうした連携・協働を重視した学校づくりを進める中で、各校長は、経営ビジョンの確かさと具現化を常に意識し、教職員一人ひとりが活躍する組織・運営はいかにあるべきかを考え働きかけている。学校運営を進める上で、「活力ある組織づくり」や「教職員の意識改革と協働体制づくり」などの視点から実践し、成果や課題を共有しながら、取組の改善・充実に生かしている。

（一）学校経営ビジョンの明確化
ア 学校評価から経営を診断
イ グランドデザイン作成の過程
ウ 教職員の共通認識
・ 学校改善を進捗させることを目的に、教職員個々の自己評価に

（二）学校課題の焦点化
ア 学校評価の具現化
イ コミュニティ・スクール（以下CS）との連動
ウ 学校間連携の推進
・ 校務分掌、CS及び学校間連携の組織を連動させるためのシステムづくりにより教職員を参画させるなど、意思形成の過程を大切にしている。

二 研究の実際

（一）学校経営ビジョンの明確化

- ア 学校評価から経営を診断
- イ グランドデザイン作成の過程
- ウ 教職員の共通認識

・ 学校改善を進捗させることを目的に、教職員個々の自己評価に

三 校長の役割

（一）学校課題の焦点化

（二）学校課題の焦点化
ア 学校評価の具現化
イ コミュニティ・スクール（以下CS）との連動
ウ 学校間連携の推進
・ 校務分掌、CS及び学校間連携の組織を連動させるためのシステムづくりにより教職員を参画させるなど、意思形成の過程を大切にしている。

（二）学校課題の焦点化
ア 学校評価の具現化
イ コミュニティ・スクール（以下CS）との連動
ウ 学校間連携の推進
・ 校務分掌、CS及び学校間連携の組織を連動させるためのシステムづくりにより教職員を参画させるなど、意思形成の過程を大切にしている。

- ・ 連携・協働の教育活動の企画や交渉を経験させるなど、教職員が活躍する機会を設ける。

地域住民参加のラジオ体操のチラシ・ポスターを作成し商店街に配布・掲示を依頼する教員↓



ふれあいラジオ体操

日時 ● 平成26年8月2日(土) 6:30-7:30

会場 ● 光市立浅江小学校 運動場

内容 ● ラジオ体操、健康なクリエーション

参加方法 ● 参加費は無料です。参加費も不要です。お問い合わせ先 ● 光市立浅江小学校

TEL: 0833-72-0039 FAX: 0833-72-7999

ア 学校運営協議会・保護者の意見の反映
イ 更新案の提示
・ 学校評価における中間評価、PTA組織や学校支援ボランティア組織における意見を集約し、学校運営協議会の場に提示するなど、PDCAのマネジメントサイクルを生かす。

（一）更新案の提示
・ 学校評価における中間評価、PTA組織や学校支援ボランティア組織における意見を集約し、学校運営協議会の場に提示するなど、PDCAのマネジメントサイクルを生かす。

（例）【地域の声】ラジオ体操の復活を希望↓【教員】地域一斉ラジオ体操を企画提案↓【CS】企画委員会具体化↓【CS・教員】チラシ配布、公民館広報掲載、商店街へのポスター掲示依頼、参加証の作成

（二）教職員の意識改革と協働体制づくり
ア 目標と評価の共通理解
イ 教職員間のコミュニケーション
・ 目標を達成するために何をやるのか、取組は計画通りにできたか、目標は達成できたか、評価の観点と手だてを明確にする。

（三）児童に開かれた学校運営
ア 開かれた教育活動
イ 児童による評価
・ 教育活動を具体化する過程で児童に参画させる。

（四）今後に向けて
（一）教職員の学校運営への参画意識の強化
（二）教職員の自律性と協働性を促す組織づくりへの転換
（三）児童の実態認識に基づいて教育活動を修正・更新できるシステムづくり

（三）児童の実態認識に基づいて教育活動を修正・更新できるシステムづくり
・ 常に、学校は児童を育てているかを意識して、校長としての組織マネジメント能力の向上に努めなければならない。